

# 平成19年度第1回「子育て・環境・魅力づくり部会」摘録

開催日時 平成19年4月17日(火) 午後6時30～8時30分

会場 幸区役所プレハブ会議室

参加委員

専門部会B委員：今井淑子部会長、松世三重子副部会長、小保方健次、酒井道子、  
庄司佳子、菅野勝之、成田信子、根本健、深瀬和則、小島春男

事務局(総務企画課)：高橋主幹、北村主査、小出職員、吉田職員、

(こども総合支援担当)：吉田主幹

次第

## 1. 報告事項

○第6回専門部会(3月5日開催)の報告

## 2. 議題

1. 「安心して子育てできる環境づくり」について
2. その他

## 1. 開 会

本会議の情報公開に関する確認。

事務局 異動職員の紹介

次第、配布資料の確認。

## 2. 前回の部会の検討内容の確認

(松世副部会長)

前回の検討状況の確認を致します。子育てグループがどうなっているか、広い視野で物事を見る必要があるのではないかと。区の社会福祉協議会の子育て関係や市民館の子育て関係、保険福祉センターの子育てについて調べてほしい。

神社やお寺を子供の遊び場という意見等があった。前回に本日の検討事項として「未就学児の遊び場」、「子育ての交流の場」、「情報発信の問題」が掲げられた。「働くお母さん達への支援の問題点」、「家にいるお母さんへの支援の問題点」という2つに分けて考えたらどうか。

「働くお母さん達への支援の問題点」として、保育園の充実・急に病気になった時に預かってもらえる施設。病気時の保育サポート制度の充実をという意見が出された。保育サポート制度として、近所の子供を自宅で預かる制度についても参考に調べて欲しいという意見があった。

今後の取組に関して、シニアの力を借りて運営作りができないかという話があった。

「家にいるお母さんへの支援の問題点」としては、遊ばせる場所が欲しい。家にいるお母さんが孤立しないサポートがしっかりできる拠点があると良い。子育て支援センターを増やして欲し

いという意見があった。施設（屋内）での遊びだけでなく、安全に子供を遊ばせる公園の環境作り等、外での遊びの重要性も揚げられた。

### 3. 「安心して子育てできる環境づくり」について

（事務局）

資料説明

（今井部会長）

「働くお母さん達への支援の問題点」と「家にいるお母さん達への支援の問題点」というふうに大きく2つに分けられるが、他にどのような問題点があって、その解決策として、どういうことができるのか、検討してみたい。資料についての質問などはありますか。

（菅野委員）

3月5日の専門部会で検討した件で資料を作っているが、個々の活動の紹介になっている。そうではなくて、統計的な数が知りたかった。団体の活動を載せると、団体の活動内容について討議することになりかねない。団体の課題は団体自身が解決することだ。

幸区内の母親クラブが12団体あるが、幸区には65の町内会がある。それに対して12団体しかないということ。これについてどう考えるかということから、数が知りたくて質問している。

質問して聞きたかったのは、数的な問題で、それについて資料2・3では、全然出てこない。例えば、検診を行った時に案内状を出したのは、何人で、実際参加者は何人なのかということ。

幸区の中で、保育所の待機児童数を調べて欲しかったが、資料が出ていない。

（事務局）

保育園の待機児童数のデータが不足していましたので調べます。

保健福祉センターで、案内状を出して何人来ているか、実際どれだけ利用されているか数が知りたいということですね。

保健福祉センターなどで、どのような取組をしているのかということを紹介したが、利用状況のデータが不足しているという指摘ですので、市民館等での子育て広場の利用者状況や保健福祉センターでの定期検診の利用者数。幸区での待機児童の状況について調べます。社会福祉協議会のデータは必要ですか。

（菅野委員）

それは必要ない。母親クラブは市から助成がなくなって、社会福祉協議会ではやらなくなった。区内7つある地区社協におろしているが、やっているところとやっていないところがある。だか

ら、市から助成が出ていた頃のクラブ数と現在のクラブ数を比較して、発展したのか衰退したのか、それが分かる資料もほしい。

(今井部会長)

事務局お願いします。他に何かありますか。

(庄司委員)

資料をみると、活動内容が多岐にわたっている。お母さんたちは、それぞれの活動にかかわる期間は短いですが、実際にどんなニーズがあって、こんなものがあつたらいいなというような声を集めているのでしょうか。どんな声が出ているのか聞きたいと思う。

(今井部会長)

私も生の声が必要だと思う。実際に今、子育てしているお母さんの声を聞かないと、ここで話し合っても意味がないと思う。前回の部会で示したアンケート以外に、生の声を調べる方法がないのか。

(事務局)

アンケートというと「地域子育て支援センターふるいちば」利用者で、土曜日の利用についてどのように感じているかという目的を持ったアンケートなので、子育てしている人全体がどのように思っているかというアンケートではない。

「地域子育て支援センターふるいちば」についての土曜日開所についてとか、みんなで子育てフェアをした時のどういうところを盛り込んでいけばいいとかというアンケートはとっているが、今のところ全体的ということかというと H17 年度に子育てサークルに行って、情報収集したぐらいです。

(成田委員)

子育て 4～5 年ぐらいの間に検診とかあると思うが、どれくらいの人に参加しているか分からない。年代によって、子育ての問題は、変わってくると思う。子育て支援センターを利用する方と利用されない方で、全く違う意見が出てくると思う。

どんな問題点が出ているのか知るためにも全体的なアンケートを採るのも必要かと思う。3ヶ月や10ヶ月健診でそれぞれアンケートをやれば、その時期の悩みが分かる。

(今井部会長)

アンケートを採りやすいのが、区役所の保健福祉センターで、子どもの検診の際にアンケートに答えてもらったらどうか。

(松世副部長)

この子ども検診というのは、順番に何かをこなしていくといった感じで、余裕は全くないですから。その時にアンケートを採るのはどうか。

(成田委員)

問診票などにこういうのがあったらよいなと書けるスペースをつくったらどうか。

(今井部長)

そこに困っていることなどを書いてもらおうとよい。折に入って、声をとっていくことが必要。菅野委員の依頼した資料と併せると、課題が見えてくるかもしれない。

「家にいるお母さん達の課題」ですが、「働いているお母さん達の課題」も検討したい。一つの資料として、資料4「ふれあい子育てサポート事業」がある。

ご近所の付き合いがなかなかない状況だとか、マンション暮らしになってしまうと地域の方との交流がなかったりする。その結果、「ふれあい子育てサポート事業」というものができたが、幸区としてPRしていく必要があると思う。他にこういう方法も良いのではないかという意見はありますか。

商店街で買い物をしている時は、預かってくれるとか。

(深瀬委員)

商店街としてつめてみたい。

(今井委員)

空き店舗の活用という方法もある。買い物中にあずかってもらえると助かるのでは。

(庄司委員)

横浜の菊名では、買い物をしている時に預かるだけでなく、広場や商店街の中で子どもを見るサポートができるスタッフがいますね。子育て支援センターが商店街にある印象です。

(今井部長)

菊名の方は、スーパーマーケットのオーナーが好意的に営業を止めたからその場所を安く使っていていいということで、NPO 法人が活動しているところがある。

(菅野委員)

元住吉でも、空き店舗で慶応大学の学生たちが、1週間に1度小学生を対象にやっている。

(今井部会長)

商店街の空き店舗を活用すると補助金が出たりする仕組みがある。町内会では、母親クラブがあると聞いたが。

(小島委員)

うちの方も以前は、あったが、役員のやり手がなくて止めてしまった。

(成田委員)

小学校に上がる時に個人情報の問題で、学校が児童の住所とか出さないの、どこの町内の子ども会に入るか、自己申告の形になる。うちの地区には、ちゃんと母親クラブがあるが、そうするとスムーズに町内で子ども会もできますよという紹介ができるが、そうでないとひろっていくのが大変。

(小島委員)

子ども会は、同じ形であるのだけれど。母親クラブはボランティアなので、負担が大きい。

(今井部会長)

ボランティアに謝礼を出せば、少しは違うかもしれない。

(庄司委員)

プログラムに乗るのはいいが、自分たちではやりたくない、よく聞きます。

(菅野委員)

パークシティなどでは、こどもが少なくなっている。新興マンションには多くいるが、その他では、点在している状況になっている。

(小島委員)

うちの町会でも、こどもが少ない。

(成田委員)

そういう状況だと、とじこもってしまうお母さんが増えてしまう気がする。そういうお母さんたちに声を掛けないと、地域で何をやっているのかわからなくなってしまふ。地域との関わり方もわからないお母さん達もいて、やっと公園に出て、友達をつくる状態です。

( 庄司会長 )

やる気ある方は、自分からどんどん情報を吸収していく。しかし、そうでない方へは、必ずみんなが来なければいけないような検診の場とかは、情報を提供するのに良い。

( 今井部会長 )

「子育て支援ネットワーク」をつくったんですね。行政側で、ネットワークの構成団体の活動内容について、把握しようと思えば把握できるのか。

( 事務局 )

それはこれからの取組みになります。年3回やっと立ち上げられて、これからどういうことをやっていこうかというところなので、まずは、連携をしっかりとっていく段階です。

( 小島委員 )

今、働くお母さんは、1歳から保育園に預けてしまっている。

( 今井部会長 )

川崎市の場合、保育園が足りない。保育園に入れないというのは、認可保育園に入りたくても入れないとかある。

( 菅野委員 )

私住んでいる地区のスーパー裏のマンションでは、自治会長になるのを皆がいやがって、3年かかった。建てて入った時には、誰もなり手が無かった。集会所を借りるにも誰に連絡したらよいか分からないので、決めてくれるようお願いした。

( 今井部会長 )

「働いているお母さん達の問題点」は、保育園が少ないということなのですかね。あと、子どもが病気をした時のサポートの確保ですか。

( 酒井委員 )

幸区内の保育園の数とかわかりませんが、先日の新聞に保育園をつくっても保育園を希望する人の数についていけない現状について書かれていた。自分の友人にも保育園に預けられなくて、仕事に復帰できなかった人がいる。申込みをしても優先順位がある。

無認可の所にも頼みにいったが、いっぱい入れなかった。無認可でも無制限に受け入れるわけではない。子育てヘルパーみたいな人がもっとたくさんいればよいのだけれど、子育てヘルパーの受け入れ側が少なければ、こういう制度がありますよと宣伝しても実際、利用できない。

(今井部会長)

子育てヘルパーの登録研修をしてあげられる所が少ない。幸区で行う子育てヘルパーの研修会は、年に1回くらい。可能であれば、幸区内でやってもらう回数の頻度を上げてもらうなどして、調整して頂けると良い。現状では、子育てヘルパーをやろうと思っても研修会がない。ヘルパー会員登録の研修会を増やすなりしてもらえれば、もっと広がると思う。

(庄司委員)

市政だよりも載っていましたね。

(今井部会長)

退職したシニアも巻き込んでいけるといい。

(成田委員)

幸区のすごく良い所だと感じるのは、庶民的なところ。子育てしているお母さんに年配の方から声をたくさん掛けてくれる。自然な形で隣近所とふれあえるのはいい。

(今井部会長)

生まれたときから住んでいる方が多かったので、ちょっと、隣のおじいちゃんやおばあちゃんに預かってもらうことができたが、新しく来た人は近所に預けるのをためらう。だから、そういう人向けにセンターなどで調整した方がいい。時代の流れで、その方が安心できるんじゃないですかね。

(庄司委員)

自分が急に病気になったときなどに預けられないと困りますね。

(松世副部会長)

今は、大半の女性の方が働いているので、60歳以上のちょうど定年退職を迎えた方達の働き場所として、子育てに関わってくれるシステムがあると良いと思う。

(今井部会長)

(子育てサポートセンターの事務所が) せっかく川崎区にあるのだから、幸区で子育てサポーター登録研修を、もう少し手を加えてやってみたらどうか。会場は、区役所とか市民館にしてみると、もっと参加しやすくなる。

(松世副部長)

介護ヘルパーのなり手はたくさんいるので、子育てヘルパーがいてもいいのでは。

(深瀬委員)

ベンチャー企業で、学生の人達が病気になった子供達を預かるために、自宅に派遣するのをテレビで見た。かなり流行っていて、それを望んでいる人達がたくさんいる。ベテランの方も派遣していると聞いている。公だけでなく、民間でやってもいいかもしれない。どこにも病気になって子どもを預かる場がない。

(成田委員)

母親側としても、どう対応していいかわからない時、いろんな世代の方にいろんなお話を聞けたら育児の参考になると思う。話を聞くだけでも、それが地域とかかわる大事な要素の1つになる。

(今井部長)

根本委員は、地域の方のヘルパーとしてお役に立ってもらえないかと言われたらどうですか。

(根本委員)

高齢者ヘルパーの希望者は多い。しかし、子育てになると難しい。大人も子どもも自分が良ければという姿勢の人が多。だから何か問題が起きると、なんでうちの子どもにこんな事をしたのかというような責任問題が起こる事もある。やるのだったら責任問題をどうするかをきっちと決めておかないと難しい。

今までは、ルールや制度の話が出てきている。前回、読み聞かせ運動というものが出たが、これも大事だと思う。今回は時間がないと思うので、今回は方向性をだしてほしいと思う。

子どもを育てるということは、自分も(大人も)育つんだということがあると思う。本当はそういう気持ちで地域で子育てに取り組めたらいい。

(菅野委員)

地域資源は、何なのを見せなければいけない。幸区内で、「市民劇場」の会員が何人いると思いますか。1,200人いる。毎月2,000円自分で出して、2ヶ月に1回演劇を見る。そういう人達というのは、幸区の文化の地域資源だと思う。根本委員の意見はもっともだが、幸区の地域資源は、何なのかという部分も検討していかなければいけないだろうと思う。



(松世副部長)

「働いているお母さん達の問題点」ということで、話をしてきたが、「働いていないお母さん達の問題点」で、“遊び場”の問題について、あまり意見が出されなかったので、未就学児の“遊び場”について意見をまとめたいと思う。前は、公園やお寺などよい意見も出された。交流の場の拡充ということで、子育て支援センターのようなものをも、もっと増やしてほしいという意見が出た。

(今井部長)

具体的にどれだけ利用されているのかとか、数値のデータがない。

(根本委員)

南加瀬こども文化センターは、非常にいろいろやっている。利用者も多い。今は中学校区に1つぐらいだが、小学校区に1ヶ所ぐらいに拡大していく必要があると思う。あまり、一ヶ所にたくさん集めると見る側の目が届かない。

今やっている南加瀬こどもセンターの現状の利用人数。実際、どういう遊びをされているのか。年間、どれぐらいの人数が利用しているのか出してもらい、それをもとに考える必要があるのではないかと。

(今井部長)

数を出してもらって、それをふまえて話し合っていきたい。どういうものにみなさんが集まって、どういう場所に集中しているのか。

(庄司委員)

市民館などに未就園児、未就学児の遊び場はあるが、少し年齢の高い子でも、どろんこ遊びができる場所や野原とかが本当はない。年齢が高い子は、遊び道具がなくてもそういう場所があるといい。年齢によって分かれると思うが、それについても話題にしてほしい。

(今井部長)

若いお母さん方は、なかなか市政だよりなどを見ないと思う。こういうのもあるよとか、こういうイベントがあるよとかの情報を伝えるために一番良い方法は、今は携帯らしい。できれば、幸区で、コミュニティサイトができたので、情報を入れて流す。悩みがあったら、保健師さんへとか、お母さん方が必要としている情報を流し込むような仕組みづくりを検討したらどうか。「メールニュースかわさき」もできたので、幸区発信で仕組みを作らないと、何がどこにあるのか、分からない人がいる。

近所から情報を得る時代ではなくなってきていて、自分達の小規模なお店なども自分の所のHPなどつくって発信していかないとお店の情報を流せない時代になってきている。ブログみたいに毎日日記を付けるように更新していく。ブログだと全くお金もかからない。

(菅野委員)

情報化社会で、情報が氾濫していて、その中で本当に必要な情報がなんなのが見えなくなっている部分もある。そういう面も考えないといけない。

(松世副部長)

情報も大事だが、人と人とのコミュニケーションが大事だと思う。

(成田委員)

私も家の中にいるだけでなく、人と行き来をすることも大事だと思う。人から分からない部分を教えてもらうとか、新しくITの部分を聞くのも新鮮な部分だと思う。同時進行が良い。いろんな方と情報で繋がる、関わっていけることが大事。

(今井部長)

こういう場があって、こういうグループの人達がいるという情報発信をして、そういうところに出かけて行ってほしい。

(成田委員)

育児を通して、いろんな人達と出会っていくことが大事だと思う。

(庄司委員)

紙媒体の情報も充実させてほしい。「みる子育て情報さいわい」のようなものに充実してこんなことができるというような情報を入れ込んで、同時にインターネットを使って情報発信をしていく。メルマガのようなものも良いのではないかな。

(今井部長)

「みる子育て情報さいわい」は、回覧してないですね。

(小島委員)

回覧板は、見ないで渡してしまう人も多い。それでも、15~16軒のブロックで回覧板を回すのに2週間かかる。見てすぐ回す人はいないし、ちゃんと見ていない人もいる。市政だよりもいろいろ載っているのだから、そういうものを見て、どんどん施設を利用してほしい。

(菅野委員)

町内会でもらっているのは、県のたより、市政だよりと選挙公報の代金だけ。回覧板で回しているのは、役員のボランティアでやっている。だから、まちづくり推進委員会なんかは迷惑をかけられないので、できるだけ町内会館を調べるときでも自分たちでやった。

(小島委員)

子育て情報のPRは難しい。

(今井部会長)

地域で育てていくことが必要。

(成田委員)

各町内会に子ども会はあるのに、母親クラブが減っているのは残念だ。

(菅野委員)

3年前に市からの補助がなくなった影響があるのかもしれない。

(酒井委員)

ずいぶん前から減ってきていますね。補助の有無に関わらず、減っているのが現状のようです。

(今井部会長)

今から補助の仕組みをつくるのは難しい。子育てサポート制度などを推進していく方がいいのかもしれない。

(酒井委員)

今は、大きなグループを好まなくて、仲良しグループでまとまっている。昔は、意図的にグループを作って、いろんな場を作ろうとやってきたが、それではまとまらない状況になっている。

(成田委員)

母親クラブがないということは、やはり問題点とかを吸い上げるのは、子どもの検診の時ではないかと思う。そういう機会に、検診のときにアンケートをしてほしい。

(庄司委員)

4歳児と5歳児は、保育園と幼稚園のどちらに行っているのか気になります。分かるようならば、資料をお願いします。

(今井部会長)

そろそろ時間ですが、次回の部会はいつごろになりますか。

(事務局)

次回区民会議は、5月の下旬ぐらいか6月のあたぐらいで日程調整を予定しています。部会の意見がまとまりましたという報告をするのか、皆さんに検討していただくための材料を整理したものを上げていくのか、どちらかの形になるのかと思いますが。

次回の部会は、5月の中旬ぐらいでお願いします。

(今井部会長)

では、区民会議の前にもう一度来月、専門部会を開きます。

さきほど、待機児童の話が出たときに、待機児童が認可保育園の所に入れないということだったが、無認可保育園でも入れない状況とも聞いたが。

(事務局)

待機児童の基準は確認しておきます。

議論の中で、いくつか資料がほしいという声があったが、子ども文化センターの利用状況とかのデータでよいのか。南加瀬こども文化センターを会場にやっている子育て広場の利用状況なのか。こういったデータが必要か確認しておきたい。

(今井部会長)

子育て広場とかを開催しているところのデータが必要かと思う。

(事務局)

子育てサークルの活動の場として使われている文化センターはあるが、子育て広場をやっているこども文化センターは、南加瀬だけです。

#### 4. その他

- ・第2回専門部会は、平成19年5月15日(火)第3会議室で18:30から開催。